



やまゆり

学校だより

令和6年2月14日
85号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」 一気づき・考え・実行するー
校内研究重点 「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する生徒を育成する」

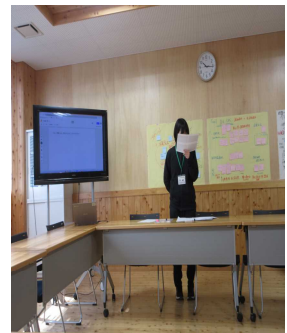
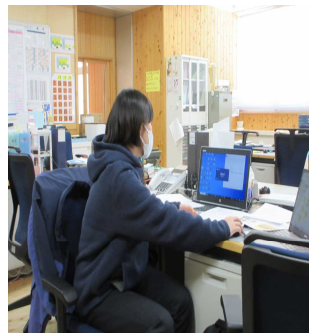
学校教育目標 「豊かな心の育成」

「外川真夢先生」が2年生の道徳の授業を公開しました

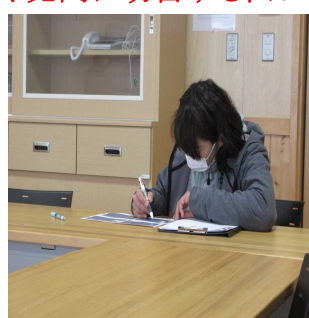
昨日2月13日(火)に外川先生が2年生の道徳の授業を公開して、富士・東部教育事務所の小俣博昭指導主事から指導をして頂きました。県の施策で、若い教職員を育成するために指導主事が年に3回指導する機会が設けられ、今回で3回目でした。過去にも保健体育・軟式野球の実技を指導しました。

小俣指導主事からは、どの授業でも学習目標と活動がブレない指導と評価の一体化がなされていてとても良い。本日の道徳の学習指導も、夢をもち、強い意志をもってより良い生き方を目指す道徳的实践意欲を培えたと思う。ICT機器を使いこなし、生徒も集中してよく取り組んでいた。と評価して下さいました。三贈会の主顧問であり、昨日の授業の準備等とても多忙な中でしっかり準備し、より良い授業のために努力しました。本校の道徳の授業の充実にも貢献してくれました。

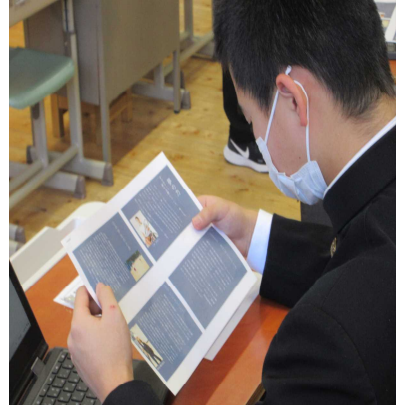
3連休中も学校に来て道徳の授業の準備をしました。 2校時に会議室で模擬授業をした様子



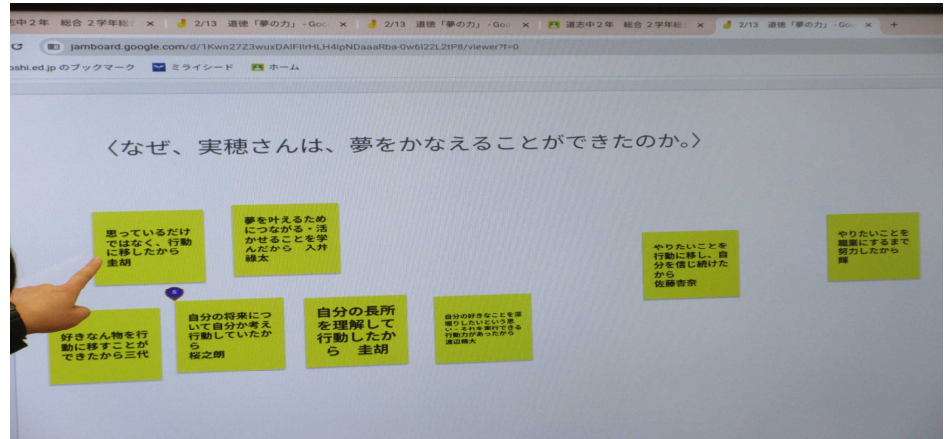
朗読の練習・授業の進行や発問に助言する山口先生・準備のお手伝い中山先生・5校時の授業



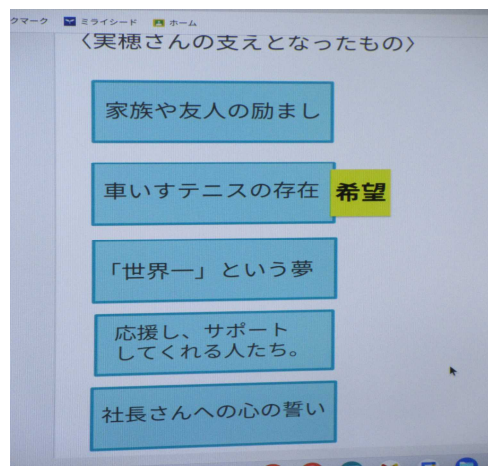
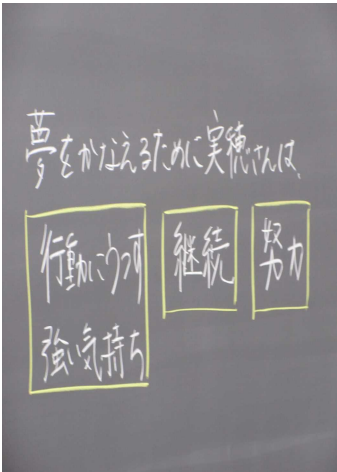
誠実に努力する真夢先生 三贈会での満足感・達成感を伝える生徒 集中する生徒の様子



一人一台端末を活用し、各自の意見を視覚化しながら多様な意見に触れて協議する工夫



夢を適えるためのポイント 主人公の困難を支えた要因を視覚化 自分の問題として考える生徒



机間指導でも、生徒一人一人に寄り添い発言を促す指導



小俣指導主事との振り返り





中学生との授業の感想

- 先輩方がとても優しく面白くて楽しかったです。いじめの予防でも自分の考えを表現できて良かったです。
- 中学生がリードしてくれて頼もしかったです。三浦先生がとても面白かったです。緊張しないで話げできました。いじめは、誤解もあることが分かったので気を付けたいです。
- 中学生とも仲良くできたし、優しくしてくれたので緊張感なく学習できた。先生もわかりやすく教えてくれた。悪気がなくても、いじめになってしまうことが分かった。
- いじめについてグループで話し合うことはあまりしなかったなので、この機会に中学生と一緒に考えることができて良かった。
- やはりいじめは良くないと思いました。自分で決めつけて行動しないで、確認を取って行動する事の重要さが分かりました。
- 中学生と一緒に勉強したり、前に出て説明したりして分かりやすかった。
- 中学1年生のコミュニケーションが上手くてとても分かりやすかった。いじめという身近な問題を中学生と一緒に学べて良かった。中学生がすごく優しくしてくれてうれしかった。
- 中学生のみなさんが、自分の発言にうなづいてくれたり、また違う意見を出してくれたので緊張がほぐれました。また、新たに自分の感じていることを知る事が出来ました。

中学校で頑張りたいこと

- 誰もがいじめられないクラスづくりを頑張りたい。また、コミュニケーションを頑張って、先輩との仲を深めたい。考えをしっかりと伝えることも努力したい。
- 先輩を呼ぶときに、小学校では「○○くん」だったが、「○○先輩」と呼ぶようにしたい。
- 勉強と部活動を頑張りたい。
- 勉強は特に、国語や数学、社会・英語を積極的に取り組みたい。スポーツは全力で取り組んで、今までよりできることを増やしたい。
- 小学校には無かった教科もあり、勉強も難しくなるので、家でも予習・復習をしっかりしたい。部活動も、楽しみながら積極的に頑張りたい。
- 主に勉強を頑張りたい。また、中学校では部活動があるので、頑張りたい。今日学んだ、人間関係も頑張りたいと思う。
- 部活動を頑張って体力を付けたい。勉強も難しくなるので頑張りたい。
- 中学生になったら難しい言葉も使うので授業を頑張りたい。また、しっかり発言したい。

残りの小学校生活 毎日授業で自分の意見を発表する。友人の意見に反応して、どんな時でもみんなが意見を言えるよう頑張りたい。また、時間を見て主体的に行動したい。

次世代リीडラーを育てる

③7

杉本 賢二 山梨・道志村立道志中学校校長

今回は令和の日本型教育の「協働的な学び」について実践を伝えた。学習指導の目的は、3観点の学力育成であり、その実現の有効な手段として協働学習をしている。協働学習の活性化により、一人一人の学習目標達成の可能性が高まり、さまざまな教育効果の期待できる。例えば、本校では、ウエルビーイングの向上のために重要な非認知能力として「自己肯定感」や「他者信頼」「困難を打開する力」等を掲げ、育成している。これらの育成には、協働的な体験が欠かせないといわれる。しかしその前提になるのは、心理的な安全が担保された学級づくりと、あつちのまが許容されついでに自分自身が語れる人間関係の構築であると考えられる。形骸化した協働的な学びの言語活動は、いじめや不登校、学びの意欲の低下につながる。また、個別・協働という学びの形態ではなく、学びそのものが楽しく知的好奇心を満たす学習が強く求められる。

本校では、前回紹介し

「協働的な学び」の推進

た個の状態に応じた組織的な教職員の指導と、自律した学びを旨とした個別最適な学びを推進している。

協働学習を展開する際には、グループアプローチを活用した次の3点を重点にしている。

1. 構成・枠を介して各自が根拠を用いて自分の考えを自己開示し、聞いてもらう認めてもらう
2. 各自が3観点を単元目標を達成する
3. 対話を通して学びを広げ、深める。そして、価値ある考えを創造する

ICTは、自分の考えの形成、共有化、振り返り、家庭学習、オンライン参加等、学習目標達成のために活用している。

さらに本校では、異学年の生徒、地元小学校の見学、新潟県粟島浦村立栗

島浦中学校の生徒など、多様な他者を価値ある存在として尊重しながらICTを活用して学力を育成している。

言語活動の質の向上は、人間関係にも直結する。主体的な協働学習によって学力保障のみならず、いじめや不登校防止

生きがい感のある働き方改革でも成果を得ている。

心理的安全性の担保が鍵 自己開示できる環境から